

平成25年8月20日
独立行政法人水産総合研究センター
(参考情報)

7月中・下旬に対馬海峡で実施の調査船調査結果に基づく 大型クラゲの出現予測モデルの計算結果について（その2）

独立行政法人水産総合研究センターでは、大型クラゲの出現予測モデルを開発しています。これは、国際フェリー目視調査結果や調査船調査結果等を初期条件として水産総合研究センター等の海況予測モデル流況結果を用いて、我が国沿岸水域における大型クラゲの出現予測計算を行うものです。

7月中・下旬に対馬海峡で実施された調査船調査結果^{*1}を初期条件として、このモデルを用いて計算^{*2}したところ、対馬海峡西水道から流入した大型クラゲのうち、隠岐諸島周辺海域を通過した分布群については、8月下旬～9月上旬にかけて丹後～能登の沿岸付近に出現することが予測されるとともに、韓国東岸を北上後、南下せずに沖合域を東方に移動した分布群については、9月上旬頃に山形県～秋田県の沖合に達することが予測されましたので、情報提供いたします。

なお、本予測モデルは大型クラゲの先端群がいつ日本周辺水域に出現するかを予測するものであり、このモデルで出現量を予測するものではありません。また、本予測モデルは、現在まで得られた気象等のデータに基づき計算されたものであり、今後の気象・海象条件により実際の確認時期と相違が生じる場合がありますので、実際の出現状況等については、国際フェリー目視調査や調査船調査結果を御確認いただくようお願いします。

※1. 「大型クラゲの出現状況（国際フェリー調査結果等）について（第3報）」

<http://www.fra.affrc.go.jp/kurage/h25/250802/index.html>

※2. 日本海海況予測システム（JADE）の流況結果を用いて計算

本件照会先（担当者）：

独立行政法人水産総合研究センター

研究推進部研究主幹 中田 TEL 045-227-2646

日本海区水産研究所資源環境部長 加藤 TEL 025-228-0587